

河川のアメニティー向上に関する研究(その1) アンケートによる環境意識調査

山口大学工学部 正員 浮田正夫
 正員 関根雅彦
 正員 中西 弘

1. はじめに

都市のアメニティー向上の一環として、各地で水辺の親水空間の見直しが盛んに行われている。身近な水環境に対する市民の関心を高めることは、水質保全行政にとっても、非常に重要なことであると考えられる。

本研究では、このような観点からこれまでに行った、河川環境の感覚指標に関する予備的アンケートの結果および市民アンケートの中から主としてコンクリート三面張りに対する評価の紹介をし、若干の考察を行いたい。

2. 研究方法

(1) 河川環境の感覚指標調査 宇部市内の河川79箇所について、研究室のメンバー5-6名で現場に行き、橋の上、堤の上など一般性の高い位置から実際に水を見ながら、アンケート形式により、環境質の採点を行う。この結果から、非常によい10、よい8、普通5、わるい2、非常にわるい0とし、全調査者についてその得点を平均する。総合評点を求める際の重みづけは景観点2、魅力度3、水のきれいさ4の割合で100点満点に表現した。このアンケートと同時に、川の規模、流速、流量の測定と、主要水質項目として、BOD、NH₄-N、D₀の分析を行った。

(2) 第1回市民アンケート調査 身近な水環境としての都市河川や沿岸海域の水質に対する市民の意識や利用状況を知り、これらの水域における環境目標を考える上での参考資料にする目的で市民アンケートを実施した。調査時期は昭和57年2月で、宇部市環境衛生連合会と各市民センターの協力を得て、市内の自治会長568名に市の広報の配布時期にあわせて、配布回収した。回収率は73%であった。

(3) 第2回市民アンケート調査 身近な水辺のアメニティー向上に対する市民のニーズをさぐり、その関心を高める目的で、市内の河川を題材にとった水辺のカラー写真の感想を問う設問も含めたアンケートを実施した。調査時期は昭和63年1月で、市内の各中学校1年生の2クラス程度の生徒とその家族に答えてもらった。回収率は各校長に主旨を理解していただいて協力を得たので、94%と高かった。

3. 研究結果および考察

(1) 河川環境の感覚指標調査 図1に宇部市内河川の環境質総合評点の分布状況をまとめるように、80点以上を示す地点はわずか2点しかなく、魅力のある水辺が非常に不足していることがわかった。農村部や山間部までコンクリートで固められた水路が多かった。NH₄-NやBODの対数値と総合評点の間には、それぞれ、相関係数-0.63、-0.59と有意な負相関が認められた。

(2) 第1回市民アンケート調査 表1、表2に三面張りの是非および、その理由についての回答結果をまとめた。過半数が三面張り整備を支持し、その理由として、衛生や排水の改善などが挙げられている。

(3) 第2回市民アンケート調査

まず、前回の調査同様、三面張り整備工事の是非についての回答結果は表3に示す通りである。前回に比較すると、61%から71%へと肯定的な意見が増えている。これは前回の調査が比較的意識の高い町

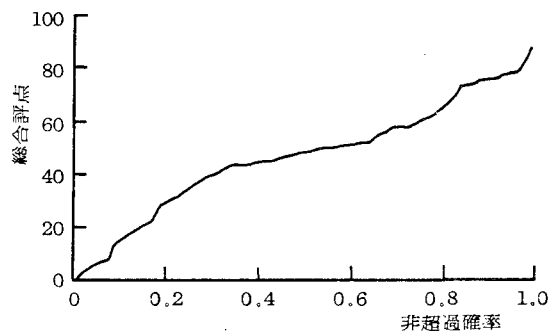


図1 宇部市内河川の環境質総合評点の分布

表1 河川や水路の三面張り

整備をどう思うか	
回答数	415
よい	30.8%
どちらかといえばよい	30.1
どちらかといえば悪い	30.4
悪い	8.7

表2 三面張りの是非の理由

よい理由		悪い理由	
衛生的に良くなる	40.3%	生物がすみにくい	37.9%
排水が良くなる	27.7	浄化作用が低下する	29.2
清掃がしやすい	19.8	美観が損なわれる	18.6
すっきりして美しい	7.1	近づきにくくなる	11.2
雑草がはえない	5.1	こどもに危険	3.1

内会長を対象として行われたためであると考えられる。

性別による差については、意外に男より女の方が三面張りの支持率が高い。これは幼少時川で遊んだ経験の有無による差ではないかと考えられる。また、地区別の差を見てみると、もっとも自然度の高い小野地区で三面張りの支持率が52%と最低であったが、それについて、自然度の高い厚東、東岐波地区ではむしろ、三面張りの支持率は79、73%と高い。東岐波と旧市内の間にある西岐波では、経験によるものか、59%と比較的低い支持率を示している。高級住宅地である小羽山では低め、低地の開発地である厚南では、高めの支持率が得られた。

つぎに、比較的美観に整備された中川の写真3についての回答を表4にまとめたが、男女の傾向はやはり上述と同様である。年齢別の差はあまり大きくないが、10代以下と40代で若干、三面張りの支持率が低めである。50代以上での支持率が94%とっとも高いのは注目される。

図2はあまり良くない工事例について、前後の写真について感想を見たものである。好ましくないとした人の割合は工事前で65%、後で88%であった。年齢とともに感受性の低下する傾向が窺える。

4. おわりに 土木技術者は住みよい環境づくりのために、より美的感覚を身につけ、日常の設計にあたって、出来る範囲での工夫が必要であると思われる。

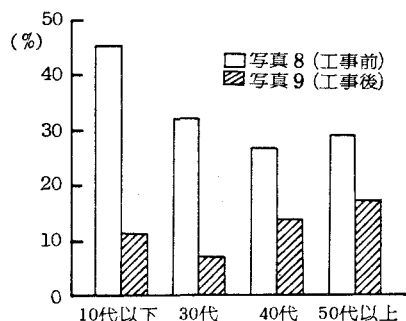


図2 写真8,9 (明神川工事前後) に対する回答

表3 コンクリート三面張り水路整備について

	回答数	好ましい	どちらか といえば	好ましい くない	好ましい くない
全員	610	27.2	43.6	24.1	5.4
性別 男	186	24.7	41.4	25.8	8.1
女	425	28.2	44.5	23.1	4.2
地区 小野	33	21.2	30.3	36.4	12.1
別 厚東	46	37.9	40.9	16.7	4.5
東岐波	73	30.1	42.5	20.5	6.8
西岐波	69	20.3	39.1	36.2	4.3
小羽山	40	15.0	50.0	27.5	7.5
厚南	87	26.4	48.3	20.7	4.6
旧市内	256	28.5	44.5	22.7	4.3

表4 写真3 (中川三面張り水路) に対する回答

	回答数	好ましい	どちらか といえば	好ましい くない	好ましい くない
全員	1,596	60.7	26.7	8.4	4.2
性別 男	690	57.0	28.6	10.3	4.2
女	898	63.6	25.3	6.9	4.2
年齢 10代以下	536	60.8	25.4	8.8	5.0
別 30代	384	65.4	24.7	6.3	3.6
40代	504	59.7	27.0	9.3	4.0
50代以上	81	64.2	29.6	3.7	2.5